

秋田県立大学木材高度加工研究所！

杉樹皮を使ったボードの開発など話題のあるテーマを研究されている秋田県立大学木材高度加工研究所を訪ねてみました。「秋田杉で有名な秋田県の木材産業を資源依存型から技術立地型に転換するための基盤の確立」を目的として 1995 年、能代市に発足した研究所です。大学の付属施設ではありますが、「木材の加工・利用あるいは再利用に関する研究ならびに技術開発の継続が木質資源の理想的な循環系確立への近道であり、人類の未来において極めて重要活動である」という高邁な理念のもとに活動されています。高度加工研究センターの研究テーマは

1. 秋田県産スギ材の品質管理と材料性能保証
 - ①県産スギ材の材質解明と予測。②合理的な乾燥システムの確立。③高信頼性木質材料の開発と評価技術の確立
2. 低環境負荷型構造物の開発
 - ①環境共生木質住宅の構法システムの開発。②長寿命木質橋梁・土木資材の開発。③低負荷・低毒性薬剤による木材保存法の開発
3. 木質系材料のリユース・リサイクル技術の創成
 - ①物的変換プロセスを用いる再利用技術の開発。②熱処理による環境浄化材料等の開発。③建築残廃材を用いた機能性材料・再構成木質材料の開発

などです。とても大学の施設とは思えない設備と、経年的な基礎研究を続けられており、ただただ驚くばかりでした。民間の困っていること、民間で研究できないようなことをテーマとして取り上げ、そのデータを基に、公共の事業で活用し、さらに研究成果を民間に技術移転するために、(財)秋田県木材加工推進機構も併設されていました。東北へ行かれる時は是非立ち寄ってみられてはどうですか。

構造計算書偽造

構造計算書偽造が大きな社会問題になっています。何故こんなことが起きたのでしょうか。詳しくはこれからの調査を待たなければわかりませんが、この事件を聞いた時に、今年の 2 月行われた木造住宅推進協議会の講習会で、講師の「欠陥住宅を正す会」代表幹事澤田弁護士の言われた「住宅はどんなに合理化されても手造りです。電気製品や車とは違います。必要なコストは認めましょう。」という事を思い出しました。「安ければ良い」という風潮は大量生産された製品であり、契約してから造られる物はコストに見合った材料や、手間しかかけられないという事です。ローコストという言葉に惑わされず、必要なコストをしっかりと把握したいものですね。

【情報】

「地材地建」かごしま材の家づくりセミナーが開催されます (オープン参加できます)

日時 平成 17 年 12 月 6 日(火)PM1:30~5:00

場所 かごしま県民交流センター 大研修室 2

講演「木造住宅のリフォームにおける地域材利用と木質内装材」 趙海光氏

「顔の見える木材での家づくりネットワークの事例紹介」 野辺公一氏

問合せ先 (財) 県住宅・建築総合センター Tel.099-224-4543

【定休日】12 月は 4, 10, 11, 18, 25, 29, 30, 31 日となります

1 月は 1, 2, 3, 4, 8, 15, 16, 22, 29 日となります

ご協力お願いします。



(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)